

コラム④ 介護している家族の方へ

【接し方のポイント】

認知症の症状は、その人の価値観や背景によって異なります。本人の気持ちやペースに合わせて、出来る範囲で焦らず、ときには人に頼りつつ接しましょう。

① 財布を盗られた！



自分がなくしたことを忘れて「盗まれた」と思いこんでしまうことがあります。否定はせず、不安な気持ちを共有して一緒に探しましょう。本人に見つけてもらい、一緒に喜ぶことで安心に繋がる場合があります。

② あなたはどなた？



身近な人を忘れたり、他人と間違えてしまったりすることがあります。無理に訂正せず、その人物になりきって返答すると、安心に繋がる場合があります。

③ 今日は何月何日？



「時間や場所を正しく認識できているか」という不安から何度も尋ねることがあります。「何度も聞かないで」と怒ることなく、見やすい場所にメモを置くなど、不安を和らげる方法を考えてみましょう。

④ (食事したのに)
ごはんはまだ？

食事をしたことを忘れてしまうことがあります。本人の思いに合わせて「今、用意してくるね」としばらく台所に立ったり、「お茶を飲んで待っていて」と声をかけたりすると、納得して安心してもらえる場合があります。

⑤ 誰かに狙われている



実際には存在しないものが見えたり、感じたりすることがあります。周囲の人には理解できなくても、本人は不安や恐怖を感じています。否定はせず、追い払うふりをしたりするなどして、寄り添って不安を和らげましょう。

【行方がわからなくなったら】

① 110番
警察に届け出

警察に相談し、行方不明届を出して捜索を依頼する。「本人の写真」「身長などの身体的特徴」「行きそうな場所(昔住んでいた場所など)」「愛称や仕草など本人確認できる情報」があると探しやすいことがあります。

② おとしより
保健福祉センター
に連絡

おとしより保健福祉センターが、
・区内の全おとしより相談センターと情報連携
・「東京都行方不明認知症等情報共有サイト」に行方不明者の情報を登録することにより、都内の他の区市町村に情報提供します。また、家族などからの希望により、警視庁や近隣県に情報提供します。

月～土 9:00～17:00
(上記以外は翌営業日に対応)